

法学部図書室紹介

—シリーズ「京都大学図書室巡り」—

京都大学法学部は明治32年（1899）9月、京都帝国大学法科大学として創立し、大正8年5月に経済学部との分離等の歴史的経過を踏まえて、今秋には100年を迎え、記念行事等も計画されています。

法学部図書室は、法科大学が創立された時に創設された研究図書室で、現在は、整理、閲覧両掛（掛員15名）で研究・教育の一翼をにない、それに貢献すべく全力で対応しています。さらに、法学部附属国際法政文献資料センター（昭和54年設立）とも連携して集書などの各種の業務も進めています。

昭和47年、書庫の狭隘、図書室機能の充実等を考え、長年親しまれてきた赤煉瓦の2階建から、鉄筋5階建、地下2層の法経両図書室を内包する新館（法経北館）に建て替えられました。しかし、大学の敷地利用計画、多様化する業務内容にも対応すべく、法経建物の新営計画もあり、現在の法経北館もいつ迄続くか、との話もあります。

その法学部図書室は創設以来の資料の蓄積は約57万冊（和書24万冊、洋書33万冊）に至り、その資料的価値は全国でも屈指のものと評価されています。特に、第2次大戦以前の法学・政治学研究の図書資料としては、東洋一の水準といわれています。法学部における基礎資料は、教育・研究資料として最重要なものとしての日本及び外国の法令集、判例集であり、法令の改正、判例の動向を知る上で、欠くことの出来ないものです。一般的に「National Reporter System」と総称されているアメリカ各州の判

例集を含め、過去から現在まで積み重ねられてきた多様な資料は、全国的に見ても貴重なものであり、少なくとも西日本では質、量とも最高峰と言っても過言ではないでしょう。さらに、外国の学者の蒐集による多数の文庫が所蔵されています。なかでも、Thaner文庫（教会法関係の図書を中心に2600余冊）、Hatschek文庫（公法学関係の図書を中心に2100余冊）、Tuhr文庫（民法関係の図書を中心に1900余冊）が目玉をひきます。また、法制史関係では、例えば、江戸時代の各地の藩の法令集など多くの貴重書を所蔵しています。これら図書資料とは別に法制史関係標本類（昔使われた看板、十手、責め道具等）も貴重な物として保管されています。紹介しなければならない図書資料には枚挙がありませんが、内容的に法学部の蔵書構成をみると、単に法学・政治学のみならず、哲学・歴史学などの隣接領域の諸学問を含んでいます。経済学部の蔵書構成と併せて、両学部で社会科学関係の資料はほとんど揃っているといえましょう。

これらの図書資料は法学部閲覧掛に来館して所定の手続きを踏めば、利用が出来ます。資料にたどり着くには、全国的なネットワークで検索する方法と、従来の目録カードで検索する方法とがあります。一度ぜひ法学部図書室へ足を運んでみてください。意外な資料を手にすることが出来るかも知れませんよ。

（法学部図書室 山田 忠彦）